

薬 剤 名		処理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
Ⅲ 1. 湛 水 直 播	TNY - 53 粒	土 壌	温暖地西部 以西.	一年生雑草, マ ツバイ.	植代後 (-5~-2).	㊥ g/a 200 ~ 300	壤土~埴土 (1cm/日 以下)	
	G-315㊥ 乳	土 壌	温暖地東部.	一年生雑草.	播種後, 雑草発生前~始 (イネ出芽前).	㊥ ml/a 30 ~ 40	壤土~埴土	1) 雑草発生前より発生 始期でより効果が大き い.
	BAS - 3510(Na) 液	茎 葉	温暖地以西.	ミズガヤツリ, 一年生広葉雑草.	一年生広葉雑草 : 生育期. ミズガヤツリ: 発生前後~7 L.	㊥ ml/a 入水前 40~60 入水後 30~60	全土壌	1) 入水後処理も落水処 理で効果が高い. 2) DCPA剤と7日以内 の近接散布はさける.
	S - 28・ P 乳	土 壌	温暖地東部.	一年生雑草.	播種後, 雑草発生前~始 (イネ出芽前).	㊥ ml/a 80 ~ 120	壤土~埴土	
	B - 3015 ・P 粒	土 壌	温暖地西部 以西.	一年生雑草.	播種直後 (+0~+1).	㊥ g/a 400 ~ 600	砂壤土~埴 土 但し, 暖地 は砂壤土を 除く.	
Ⅲ 2. 乾 田 直 播	B - 3015 ・P 乳	土 壌	寒冷地以西.	一年生雑草.	播種直後~ イネ出芽前まで (ノビエ1Lまで).	㊥ ml/a 60~100 〔但し, 寒冷地 温暖地 東部は 60~80〕	砂壤土~埴 土 〔但し, 寒冷 地は砂壤土 を除く.〕	
	DCMU 水和	茎葉兼土 壌	寒冷地~温 暖地.	全草種.	発生前~発生始 期.	㊥ g/a 15 ~ 30	全土壌	畦畔散布上の注意を守る.

昭和51年度畑作関係除草剤 試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会技術部

昭和51年度畑作関係除草剤の試験成績中央検 討会結果を報告する。

昭和51年度に供試された畑作関係除草剤は、3 薬剤、かんしょ 2 薬剤計29薬剤であった。適定性スクリーニングに4 薬剤、作用特性試験として大豆6 薬剤、小豆5 薬剤、菜豆5 薬剤、落花生3 薬剤、とうもろこし1 薬剤、陸稲1薬剤、さらに、実用化可能と判定された薬剤の使用基準は第2表のとおりである。

第1表 昭和51年度畑作関係除草剤適用性試験結果判定表

区 分	実	実 ・ 継	継
1) 大 豆	S S H - 36 液剤.	N P - 48 (Na) 水溶剤, S - 28 乳剤, B - 3015 ・ P 粒剤, トリフルラリン粒剤, トリフルラリン乳剤 + リニュロン水和剤, A N K - 553 乳剤.	T H - 68 乳剤, D A C - 893 乳剤, H S W - 761 水和剤, B A S - 3510 水和剤, トリフルラリン乳剤 + D N B P 液剤, M - 51 水和剤, M - 61 水和剤.
2) 小 豆		S S H - 36 液剤, S K H - 01 水和剤.	T H - 68 乳剤, S - 28 乳剤, D A C - 893 乳剤, トリフルラリン乳剤 + D N B P 液剤.
3) 菜 豆			T H - 68 乳剤, S - 28 乳剤, S S H - 36 液剤, D A C - 893 乳剤, H S W - 761 水和剤, B A S - 3510 水和剤, トリフルラリン乳剤 + D N B P 液剤, トリフルラリン乳剤 + リニュロン水和剤.
4) 落 花 生	N K - 049 ・ P 水和剤, プロメトリン・アラクロール 乳剤.	N P - 48 (Na) 水溶剤, B - 3015 ・ P 粒剤, A N K - 553 乳剤.	S - 28 乳剤, U - 67 粒剤.
5) とうもろこし			A N K - 553 乳剤, S S H - 43 水和剤.
6) 陸 稲		B - 3015 ・ P 粒剤.	A N K - 553 乳剤.
7) さとうきび			V E L - 26 水和剤, D P X - 3674 水和剤.
8) ばれいしょ			M B - 76 水和剤.

区 分	実	実 ・ 継	継
9) かんしょ	B-3015・P粒剤, NTN-80水和剤.	NP-48(Na)水溶剤, NK-049水和剤.	SL-501水溶剤, SL-502水和剤.
10) こんにゃく	パラコート液剤 +トリフルラリン乳剤, MCC粒剤.	B-3015・P粒剤.	SSH-36液剤.
11) てん菜(移植)		U-67水和剤.	NP-48(Na)水溶剤, SL-38乳剤+PAC水和剤, SL-38乳剤+ベタナール水和剤.
12) てん菜(直はん)			SL-38乳剤+PAC水和剤.

注) 本年度は「継?」,「中止」と判定された薬剤はなかった.

第2表 昭和51年度畑作関係実用化除草剤使用基準一覧表

区 分	薬 剤 名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使用量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1) 大 豆	NP-48(Na)	水 溶	実・継	茎 葉	イネ科2 ~5L (北海道 2~4L)	10~15g/a	全土壌	温暖地以北	単用および 体系処理.
	S-28	乳	実・継	土 壌	出芽前	20~40ml/a	全土壌	寒 地	
	B-3015・P	粒	実・継	土 壌	は種後	400~600 g/a	全土壌	全 域	
	SSH-36	液	実	土 壌	出芽前	80~100 ml/a	全土壌	寒 地	出芽前~ 出芽直前.
	トリフルラリン	粒	実・継	土 壌	は種後	400~600 g/a	全土壌 〔砂土, 砂壤土 を除く.〕	寒冷地, 温 暖地.	イネ科対象.
	トリフルラリン + リニユロン	乳 水 和	実・継	土 壌	は種後 ~ 出芽前	トリフルラ リン 20ml/a +リニユロン 10~15g/a	〔全土壌-寒冷地 火山灰土壌-温暖地〕		
	ANK-553	乳	実・継	土 壌	は種後	20 g/a	火山灰 土壌	寒 地	
2) 小 豆	SSH-36	液	実・継	土 壌	出芽前	80~100 ml/a	全土壌	寒 地	出芽前~ 出芽直前.

区 分	薬 剤 名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
小 豆 (つづき)	SKH-01	水 和	実・継	土 壌	は種後～ 出芽前	10～20 g/a	全土壌	寒 地	イネ科, ツユクサに 効果劣る.
3) 落花生	NP-48(Na)	水 溶	実・継	茎 葉	イネ科2 ～5 L	10～15 g/a	全土壌	温暖地以西	単用および 体系処理.
	B-3015・P	粒	実・継	土 壌	は種後	400～600 g/a	全土壌	寒冷地以南	マルチ含む.
	ANK-553	乳	実・継	土 壌	は種後	20～30ml/a	全土壌	温暖地以西	無マルチ.
	NK-049・P	水 和	実	土 壌	は種後	40～60 g/a	全土壌	温暖地以西	
	プロメトリン・ アラクロール	乳	実	土 壌	は種後 マルチ前	20～30ml/a	全土壌 〔砂土, 砂壤土 を除く.〕	温暖地以前 寒冷地	無マルチ. マルチ.
4) 陸 稲	B-3015・P	粒	実・継	土 壌	は種後	400～600 g/a	全土壌	寒冷地以南	
5) かんしょ	NP-48(Na)	水 溶	実・継	茎 葉	イネ科2 ～5 L	10～15 g/a	全土壌	暖 地	
	B-3015・P	粒	実	土 壌	挿苗後	400～600 g/a	全土壌 〔砂土を 除く.〕	温暖地以西	
	NTN-80	水 和	実	土 壌	挿苗後	30～50 g/a	全土壌	温暖地以西	
	NK-049	水 和	実・継	土 壌	挿苗前	60～100 g/a	全土壌	温暖地以西	
6) こんぱく	B-3015・P	粒	実・継	土 壌	植付後ま たは培土 後	400～600 g/a	全土壌	寒冷地およ び温暖地	
	パラコート +トリフルリン	液+乳	実	茎葉兼土 壌	植付後ま たは培土 後	パラコート 20～30ml/a + トリフル リン20～30 ml/a	全土壌	寒冷地およ び温暖地	
	MCC	粒	実	土 壌	植付後ま たは培土 後	400～600 g/a	全土壌	寒冷地およ び温暖地	

区 分	薬 剤 名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
7) てん菜	U-67	水 和	実・継	土 壌	移植後 雑草発生 前	25~35 g/a	全土壌	寒 地	移 植.

昭和51年度水稲・畑作関係 生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会技術部

昭和51年度水稲・畑作関係生育調節剤試験成績検討会の結果を報告する。本年度は水稲関係8剤，畑作関係9剤，その他マルチ関係で4点

が供試されたが，その検討結果を示すと次表の通りである。なお，マルチ関係については，別の検討会を開催し検討する。

昭和51年度 水稲・畑作関係生育調節剤審査判定および使用基準

I 水 稲 関 係

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1) N-2000 水和	・9-ベンジルアデニン 1%	・倒伏防止.	継		・倒伏防止には明らかな効果は認められなかった。散布部位と効果との関係を検討する必要あり。
〔参考〕 (昭和48年度) (昭和49年度)		・活着促進効果。 ・苗の乾物重増大。 ・ペーパーポット苗ばらまき後の苗屈起促進。	実 および 継	・普通苗代では田植えの2週間前頃の茎葉に20ppm水溶液を100ml/m ² 噴霧処理する。展着剤は使用しない。 ・稚苗では田植え1週間前に20ppm水溶液を120ml/m ² 茎葉に噴霧する。展着剤は使用しない。 ・苗の屈起促進のためには，田植えの7日前に20ppm液を200ml/m ² 散布する。	・適用地域の拡大。 ・本田における耐倒伏性 ・耐肥性について検討。
2) KC-481粉	・ニコチン酸アミド 50%	・健苗育成。 ・活着促進。	継		・根部生育が促進され活着促進効果は認められる場合もあるが出芽防止など発芽時の稲に対